



臨床実戦 心臓血管外科の裏ワザ 77 ——患者の生死を分ける現場のテクニック

徳永滋彦 / 西 宏之 / 阿部恒平 著

A5判, 272頁, 定価(本体4,800円+税), 2019年, 南江堂

本書を手にとり、まずは目次をみる。基本手技、術前準備、手術総論、手術各論と、一見よくある教科書のような構成である。しかし、ポンプオフ、止血、それぞれのポイントとその詳説の一つひとつが、細かな手順まで頭の中にスッとイメージできるように工夫されている。

それぞれの疾患について手術方法のエッセンスがわかりやすく表現され、そのほとんどがその施設や師匠から弟子に代々受け継がれ、明文化されていないコツのようなものを含んでおり、ありきたりの教科書ではお目にかかれない内容になっている。

最後には「困ったときの対処法」が待ち構えており、「あれ、なんだか普通の教科書ではないな」と思われる。全体を通して読むと、考えうるあらゆる場面を想定し、コツやピットフォールについても細かく解説されており、その痒いところに手が届く内容は「なるほど」と唸らせる。

著者らが自らもまだまだ伸びしろのある才能に恵まれた外科医だからこそ感じることのできる、新鮮かつ教育的な内容を、まるで手術室にいるかのように学べる本に仕上がっている。こんな本が自分が研修医のときにあったら、また新しい手術を始める前にあったら、どんなにかスムーズに手が動いたことか、と思わされる。だから本書を手にとってページをめくってほしい。すぐにでも手術室で試してみたいこと請け合いである。

(川崎幸病院心臓病センター長・高梨秀一郎)

